AJU

カ障連「わ」

日本カトリック障害者連絡協議会会報　No.76

二〇一五年七月二十一日発行（毎週火曜日）ＡＪＵ通巻一一八七四号　一九七九年八月一日　低料第三種郵便物認可　定価一〇〇円

教皇フランシスコのことば

病気で苦しんでいる人々とともに過ごす時間は聖なる時です。それは、「仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た」（マタイ20・28）御子の姿にならうようわたしたちを導いてくださる神を賛美する時です。イエスご自身も「わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である」（ルカ22・27）と語っておられます。

生き生きとした信仰をもって、聖霊に願い求めましょう。兄弟姉妹とともに時を過ごし、多くの場合、ただ静かに寄り添うことの価値を認識できるよう恵みをお与えください。彼らは、わたしたちが寄り添い、愛情を傾けることによって、愛と憩いをより強く感じることができるのです。一方、「生活の質」の重要性を主張するあまり、重病を患っている人には生きる価値がないと思わせるようなことばには、どんなに大きな偽りが潜んでいることでしょうか。

（第23回「世界病者の日」（2015年２月11日）教皇メッセージより）

目　次

２　マラナ・タ、主よ、来たりませ　カ障連会長　宮永 久人

３　カ障連加盟団体意見交換会が開催されました　カ障連事務局長　田中 実

４　規約の変更について　――提案のポイント　カ障連書記　鈴木 隆

６　サッポロ便り３　障がいと共に歩む札幌大会実行委員会　事務局長　菊地 秀治

８【ショートエッセイ】恵みについて　札幌教区司祭　塲﨑 洋

マラナ・タ、主よ、来たりませ

カ障連会長　宮永 久人

いよいよこの８月に、第12回日本カトリック障害者連絡協議会札幌大会が開催されます。今大会は北海道で初めて開かれる大会というだけでなく、障害者権利条約が日本で発効してから初めての大会であり、来年４月から障害者差別解消法が施行される直前の大会です。教会は従来、障害者の置かれている状況を福祉の問題としてのみ捉え、人権の問題として捉えてきませんでした。これからは障害者差別の解消に向けて教会も社会的責任を負うことになります。もとより、障害者差別の廃止は私たちの主の教えでもあります。

今大会のテーマは「主の食卓に招かれたものは幸い ～招かれている喜び～」です。ミサ聖祭の起源が主の晩餐にあることは言うまでもないことですが、それは初代教会に、主を思い起こす場として引き継がれました。信徒たちは、主が復活された週の初めに密かに集まり、祈りのうちに主が行ったみ業、その死と復活を思い起こし、その再臨を待ち望んでいました。

初代教会の信徒たちの中には、障害を持った人たちが少なからずいたことが想像されます。主はご自分で多くの人々を癒されるとともに、弟子たちに、ご自分の御名による癒しの権能をお与えになりました。弟子たちも癒しを求める人々に癒しを与えました。この癒しは、必ずしも病気や障害を持つ人たちの体を、健全な体に治したと理解する必要はありません。主がこれらの人々にまなざしを向け、関わられたこと、そして自分たちの共同体に迎え入れたことこそが大切なのです。その行為は旧約聖書に記されている病者・障害者への「けがれ」に関わる律法に毅然と立ち向かい、その契約を無効にし、神の愛による新しい契約、すなわち神の国を打ち立てようとするものでした。そのためには安息日をも無視することとなり、十字架上での処刑へとつながっていったのです。癒しの奇跡は、あの時代に猖獗を極めた障害者差別への告発であり、神のいのちをかけた愛の証しです。私たちが主の再臨を待ち望むのは、ひとえにこのことを信じるからです。この大会を機会に、「障害」をキーワードに福音を読み直し、信仰のあり方を転換させるきっかけとなることを願ってやみません。

この３年間にわたり、勝谷太治司教さま、「障がいと共に歩む札幌大会実行委員会」実行委員長の高橋幸夫さま、担当司祭の場﨑洋神父さま、そして実行委員会の皆さま、この大会の開催のために有形無形のご協力、お祈りをくださった北海道の皆さまに、心からのお礼を申し上げます。さあ、札幌でともに主の食卓を囲みましょう。そして祈りましょう。

「マラナ・タ、主よ、来たりませ。」

カ障連加盟団体意見交換会が開催されました

カ障連事務局長　田中 実

今年も、3月14日（土）カトリック会館にて、加盟団体のメンバーが集まり、カ障連の運営課題について話し合いました。冒頭、宮永会長から札幌大会をもって会長を退任する旨の挨拶がありました。退任は残念ではありますが残された期間、宮永会長を中心にカ障連活動の一層の充実を確認し合いました。

議題は、①札幌大会準備、②カ障連活動の現況　③新会長選任　④規約変更 です。

① 札幌大会準備状況について

すでに案内が発送され、申込受付が進んでいます。皆様にこの紙面が届く頃は申込期日（7月21日）になっているかと思います。詳しくは6ページをご覧ください。

② カ障連活動の現況について

全体としての動きは機関紙「わ」74号に載せている通りです。特に新しい会員の輪の広がりが少ないことと、財政的に厳しい面がありますが、新しい取組みとして常任司教委員会でのカ障連提起課題についての勉強会を開催していただくことなどが予定されています。札幌総会は11時から開催致します。大会に参加する方の中で、希望者は総会にも参加いただけるという進め方を考えています。加盟団体の動きについては今後の機関紙「わ」の中で紹介させていただきますので割愛致します。

③ 新会長選任の意見交換

宮永会長の退任に伴い、札幌大会以降の新会長選任の検討を話し合いました。新会長選出作業ですが、加盟団体の皆様に事前に書面を出して新会長選任についてのご意見、推薦をいただきたいとお願い致しました。そして、各団体からの推薦者名とその理由をお聞きしました。新会長選出は、現役員会推薦・総会承認になっていますので、当意見交換会の内容を踏まえて会長推薦候補を協議し進めることになりました。

意見交換会で複数の方の会長推薦がありましたが、加盟団体の意見として名古屋の江戸徹さんを推薦することで一致できました。

出席者の意見で議論として注目されたのは、会長は障害当事者でなければならないという意見でした。一部を紹介します。「心身的にゆっくりなら、ゆっくりなりの歩みがある。彼らが会長の時は、彼らが感じる流れで進めていくことも考えられる。周りで支えればよいのです」。現規約では、障害者と健常者の区別や条件が書かれていないので、いろいろなご意見があるということになりますが、カ障連を支えるためにはどういう人物が相応しいかを柔軟に考えていくということだと思います。

④ カ障連現規約に関しての意見

総会の議決のあり方、役員の選出方法と定員、個人会員の意見、など課題が出ました。ゆるやかな納得のいく変更をという意見もあります。現役員会が提案する変更の案を4ページに記載していますのでご確認ください。

以上

規約の変更について　――提案のポイント

カ障連書記　鈴木 隆

現役員会は、前回名古屋大会での総会の持ち方についてのご批判やご意見を参考にして、会の運営にふさわしい総会のあり方を検討してまいりました。今年の3月の加盟団体意見交換会でも、ご意見を頂き、この度、ここに変更案を用意し、総会での審議をお願いすることと致しました。

変更の第1のポイントは、**3年に1回**の総会の開催を、**毎年**の開催とする点です。

これまでは、**3年に1回**、大会の開催に合わせて、同じ会場で大会期間内に総会のプログラムが組まれてきました。しかし、時世の変化が激しい中で、3年間の予算決算の審議や、活動報告、活動方針の審議は、応用性に欠け、きわめて形式的なものにならざるを得ません。一方、毎年3月頃に、会員である加盟団体の代表者が集い、意見交換をしてきましたが、その会合は審議も議決も行われない、情報交換と交流の場となっていました。3月の意見交換会に集っているのは、全員が会員でした。そこで、意見交換会を総会として位置づけ、その機会に、**毎年の**予算決算、活動報告や活動方針の**審議を行う**ことが賢明だとの結論に達しました。3年に1回の大会に合わせて総会を開催する可能性を残しながらの、規約の変更を提案することに致しました。

○第13条の本文の変更案

【現規約】総会は**3年に1回**開かれる。なお、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

【変更案】総会は**年に1回**開かれる。なお、必要に応じて臨時総会を開くことができる。

（なお、第2項以降の変更はありません。）

変更の第2のポイントは、ふさわしい用語に変更する点です。

私たちと心を合わせて歩んでくださる司教、司祭を、どのように位置づけるかという点での、ふさわしい用語への変更です。

現在は、イエズス会司祭の 英 隆一朗師が、かかわってくださっていますが、「私は、カ障連を指導する立場にはなく、カ障連の活動に協力しているだけです」という理由で、就任時から「**協力**司祭」という呼称を用いてきました。前任者のフランシスコ会司祭、中谷 功 師も、同様の理由で「**協力**司祭」と呼ばれていました。現規約では「**指導**司祭」の表記ですので、実態と合わせて「**協力**司祭」と変更したいと 考 えました。

今、共に歩んでくださっている司教は、大阪教区の前田万葉大司教です。就任のお願いにあがった時に、規約には「**指導**司教」とありますが、「**顧問**司教」の名称を望まれました。「**担当**司教」という 考 えもありますが、司教協議会でカ障連を担当するように任命を受けているわけでもないので、「**担当**」はおかしいということになりました。クラブ・サークル活動などで、関心を寄せてふさわしい助言をくださる「**顧問**」がいるのと同じように、カ障連にかかわり助言をいただく、そのよう

な役割を担っていただくわけですから、「顧問司教」がふさわしいと思い、変更を提案致しました。さらに「指導」ではなく「助言」だと言うことで、次のような変更案となりました。

○第12条の表題の変更案
【現規約】指導司教及び指導司祭
【変更案】顧問司教及び協力司祭

○第12条の本文の変更案
【現規約】本協議会は、指導司教及び指導司祭から霊的指導を受ける。
【変更案】本協議会は、顧問司教及び協力司祭から霊的助言を受ける。

変更の第３のポイントは、表記を統一する点です。

規約に細かく目通してみると、編集上のミスが残ったままになっていました。事務所と事務局は同じものを指しているのに、第２条では別々の表記になっていたり、文書の表題が「日本カトリック障害者連絡協議会規約」とあるにもかかわらず、第７章は「規約の変更」ではなく「会則の変更」となっています。このような表記の不統一を修正することが必要と考え、次のような変更案を提案します。

○第２条の表題の変更案
【現規約】事務所
【変更案】事務局
（なお、第２条本文は「事務局」のままとします。）

○第７章と第16条の表題の変更案
【現規約】会則の変更
【変更案】規約の変更

○第16条の本文の変更案
【現規約】この会則を変更するときは、総会において参加者の３分の２以上の議決を必要とする。
【変更案】この規約を変更するときは、総会において参加者の３分の２以上の議決を必要とする。

以上が規約の変更の提案です。８月22日午前11時から、藤女子大学６階651教室を会場とする総会にて、この規約の変更を審議致しますので、ここに変更の要点をお知らせ致しました。

なお、この変更案が可決されると、
第21条　この規約は、2015年８月22日より施行する。
が加えられることを付記しておきます。

サッポロ便り３

障がいと共に歩む札幌大会実行委員会　事務局長　菊地 秀治

2014年７月15日発行「わ」73号で札幌大会の準備状況をお知らせする「サッポロ便り」をお届けしてから早一年が過ぎ、いよいよ札幌大会が目前に迫ってまいりました。４月に札幌大会開催要項「わ」75号が発行され、現在続々と全国各地からお申込みが届いております。申込状況については、ほぼ一週間ごとにホームページに最新情報を掲載しております。

■６月29日現在申込状況：232名（道外80名・道内152名）

このうち、カトリック信徒は218名、求道者や他宗教の方は14名です。カトリック信徒の所属教区は、札幌教区、仙台教区、新潟教区、さいたま教区、東京教区、横浜教区、名古屋教区、京都教区、大阪教区、広島教区、福岡教区となっています。

■障がいが「ある」とお申し出の参加者は66名（28.4％）

単独障がいの方は57名、重複障がいの方は９名です。障がい区分では、肢体不自由15名、視覚障がい10名、聴覚障がい14名、内部障がい４名、知的障がい６名、精神障がい19名、発達障がい４名、その他４名となっています。

■分科会希望で一番多いのは「教会は障がいとどう歩むか」54名

分科会出席希望者は203名で、希望の多い順に、「⑨教会は障がいとどう歩むか」54名、「⑤障がい者の家族よ本音で語ろう」27名、「⑦信仰者として生きづらさとどう向き合うか」25名、「①精神障がいの仲間よ集まろう！」22名、「⑩フリートーク」18名となっています。

大会のお申込みをいただいた後、受付係がお一人お一人に電話もしくはファックスさせていただいております。ご不明な点がありましたら、ご遠慮なくお話しください。札幌大会のスタッフがお一人お一人を全力でサポートさせていただきます。なお、参加者の皆様には８月上旬に参加票を郵送する予定です。

カ障連札幌大会

障がいと共に歩む札幌大会

【主の食卓に招かれたものは幸い】

申込締切は
７月２１日必着

2015年**8**月**22**日（土）～**23**日（日）

詳しい内容は「わ」75号をご覧ください。参加費等のお支払いが難しい方は事務局（菊地）までお気軽にご相談ください。

■ 障がいと共に歩む札幌大会実行委員会　☎FAX：011-261-2188（カリタス家庭支援センター）
〒060-0031 北海道札幌市中央区北一条東６丁目10　聖ベネディクトハウス　担当：菊地 秀治

案内係

会場係・典礼係・通訳係

6月28日（日）午後、案内・会場・典礼・通訳・カフェ等のサポーター部門が藤学園でミーティングを行いました。各部門では打合せが何度も行われておりますが、実際の会場で入念な確認作業を行いました。一方、実行委員はこの日、旭川五条教会と帯広教会を訪問、札幌大会PRと共に、教会における「障がいと共に歩む」活動への取り組みを呼びかけました。

受付係

カフェ係

旭川五条教会

受付係

準備は着々と進んでいます。障がいと共に歩む札幌大会で、全国の皆様とお目にかかれますことを、サポーター一同心よりお待ち申し上げます。是非サッポロへ来てくださいね！

案内係

【ショートエッセイ】

恵みについて

場﨑 洋 （札幌教区司祭）

恵みの賜物は罪とは比較になりません。・・・・・・

罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。（ローマ 5･15,20-21）

恵みを知った人は闇の中にいた自分の存在を知っています。キャンパスに光を描くときには何色を使いますか？ 白色、黄色ですか？ 画家はこう答えます。

どうして影（苦しみ）を描かなくてはなりません。本当の光を知っている人は本当の闇から救い（光）を体験することができます。

ここに掲載した場﨑師の小文は、2013年11月 9 日に「カ障連・札幌大会にむけてのセミナー」で「聖書は障がいと生きづらさについてどう語るのか」と題して行われた講演の記録からの抜粋です。その講演録は、小冊子にまとめられています。部数に限りがありますが、まだ少し残部があります。ご入用の方は、障がいと共に歩む札幌大会実行委員会（電話・ファックス：011-261-2188）にお問い合わせください。

◇障がいと共に歩む札幌大会ホームページ
https://sites.google.com/site/sapporoksr/home/

◇カ障連ホームページ　http://homepage3.nifty.com/cadpj/

◇会報「わ」の点字版・テープ版につきましては事務局までお申込みください。

◇カ障連の活動にご理解とご支援をお願いします（同封の振替用紙をご利用ください）。
郵便局振替口座番号：00100-7-31254　　加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会

日本カトリック障害者連絡協議会会報 No.76　　発行日：2015年 7 月21日
発行責任者：日本カトリック障害者連絡協議会会長　宮永 久人
E-mail：hm.i-loyola@saint.nifty.jp　　FAX：072-841-5102
事務局：〒590-0504　大阪府泉南市信達市場 893-3-711　田中 実 方
E-mail：fxmichandeesu61@gmail.com　　TEL&FAX：072-482-8953

二〇一五年七月二十一日発行（毎週火曜日）ＡＪＵ通巻一一八七四号　発行所　東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内三―六―四三　みこころセンター四Ｆ　一九七九年八月一日　低料第三種郵便物認可　定価一〇〇円